

1.「多摩市みどりのルネッサンス」

(1)「多摩市みどりのルネッサンス」とは

「みどりのルネッサンス」とは、それぞれの地域に応じたみどりの利用や活用方法などを話し合い、多様な意見の人々が互いに理解しながら、みどりに関わり、多摩市の豊かなみどりを資産として活用していくための運動です。

市民の皆さんと一緒に身近な公園緑地のあり方や関わり方を考え、さまざまなことをどのようにできるかを考えながら、多くの市民の皆さんにみどりに継続的に関わっていただくことが、公園緑地やみどりが愛される存在として再生していくことへとつながっていきます。

1) 多摩市のみどりの特徴

多摩市のみどりは、多摩ニュータウン事業により新たに創出・再生されたみどりと、昔ながらの多摩丘陵の里山的風景が残っているみどりがつながりをもって成り立っています。また、一人当たりの公園緑地面積が近隣都市に比較して広いことから、「豊かなみどり」が多摩市の大きな特徴になっています(図1-(1)-1 参照)。



図1-(1)-1 多摩市のみどりの現状

2) 暮らしへの影響

身近なみどりの大半を占める公園緑地の多くが、造成や建設から時を経るなかで、成長した樹木が台風によって倒れたり、歩行者の見通しを悪くするなど、防災・防犯上の問題として、「緑」が暮らしに影響を及ぼしている場面が多く見られるようになりました。それにつれて、市民の皆さんの要望や苦情についても、立場や利用方法などの違いから、主に剪定や伐採などの管理方法について、市民同士または管理する側とで意見が対立することも出てきています。

3) みどりの持つ機能と価値

みどりの持つ機能は、震災時の避難路や避難場所、延焼防止といった都市の安全性・防災性を向上させる機能、ヒートアイランド現象の緩和や生物生息空間の確保、騒音の緩和など、都市の環境を維持・改善する機能、都市の潤いや里山景観の保全、美しい景観をつくる機能や、木1本1本そのものの樹形の美しさなど、みどりの存在がもたらす機能(存在効用)があります。また、子どもの遊び場や健康、レクリエーションの場、自然と触れ合う場など、利用することで生まれる機能(利用効用)があります。さらに、人とみどり、地域コミュニティといったものをつなぐという新たな可能性と価値も秘めています(図1-(1)-2 参照)。

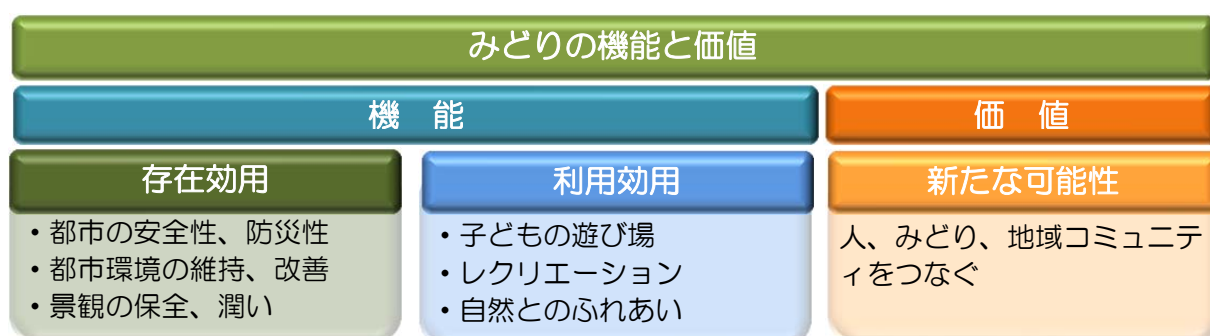


図1-(1)-2 みどりの持つ機能と価値

4) さまざまな関わるみどり

ニュータウン開発前の多摩市の「緑」は、薪炭林や落ち葉の堆肥作りなど、人々の生活と直結し、その結果「みどり」が良好に維持されてきました（写1-(1)-1参照）。一方、「緑」が直接生活と関わらなくなってきた現在においては、維持管理に終始しており、将来的にも全てを行政で対応することには限界があります。そのため、「みどりの持つ機能と価値」を捉え直し、我々の生活の中にみどりを取り入れ、市民生活と調和した空間にしていく必要があります。



写1-(1)-1 里山の景観を残す「なな山緑地」

行政による一定の管理をベースにしながら、風景や景観として眺める「愛でるみどり」から、積極的に「関わるみどり」に転換していくことが、市民の皆さんの財産であるみどりの有効活用につながります。

例えば、公園緑地などを、花壇作りや雑木林・水辺環境の保全活動の場とするだけではなく、地域コミュニティ活動を行う場としたり、農業体験・自然体験などのみどりを楽しむ体験型活動や、生物多様性保全に寄与する管理や学習を行う場、緑を題材にした文化活動などを行う場など、工夫次第で、市民生活とさまざまな関わりを持った場所にしていくことが出来ます（写1-(1)-2、写1-(1)-3参照）。



写1-(1)-2 公園の樹木を利用した「木イベント」



写1-(1)-3 公園で採れるアズマネザサを使った文化の継承活動「めかい教室」とめかい

5) これからの多摩市にあるべきみどりの実現に向けて

これから多摩市がめざすみどりのあり方は、量を誇るばかりでなく、みどりの持つ多様な機能が十分に発揮され、市民の皆さんがさまざまなみどりへの関わり方ができる空間であり、そのことによって多様なライフスタイルを実現できる空間であるべきと考えます。

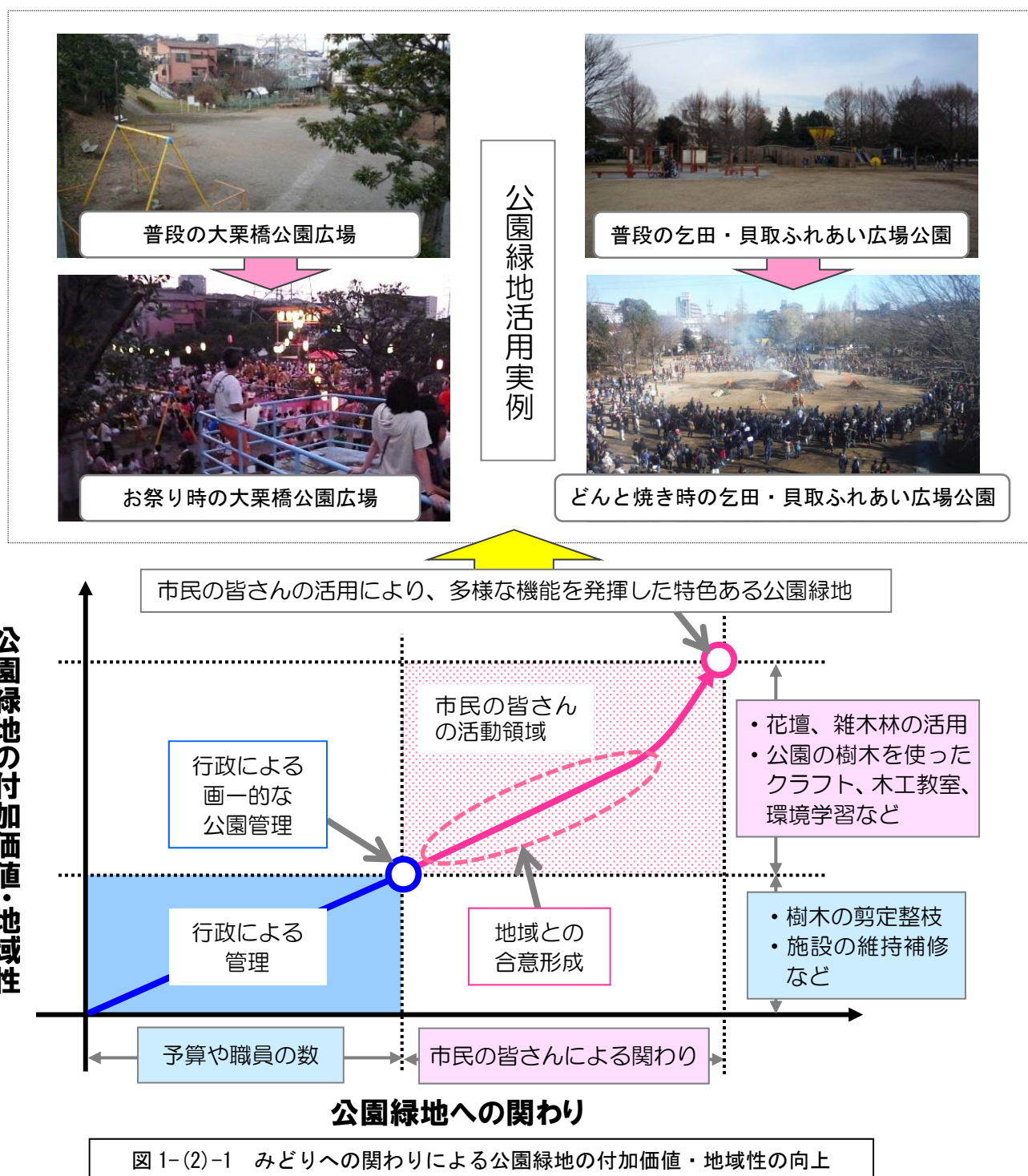
市民の皆さんと行政が手を携え、みどりという豊かな自然環境を活用していくことが、多様な機能と価値をもつ良質なみどりへの転換、多摩市らしいライフスタイルを創造できる場所の実現へとつながっていくと考えます。

(2) 多様な機能を発揮させる公園緑地

行政が行う公園緑地の管理は、樹木の剪定整枝や施設の維持補修などの基本的な部分です（図1-(2)-1 部分）。

公園緑地の付加価値・地域性を高めるには、みどりを活用することが重要です。例えば花壇、雑木林の活用、公園の樹木を使ったクラフト、木工教室、環境学習など、みどりを活用することで、公園緑地の多様な機能を発揮させることができますようになります。

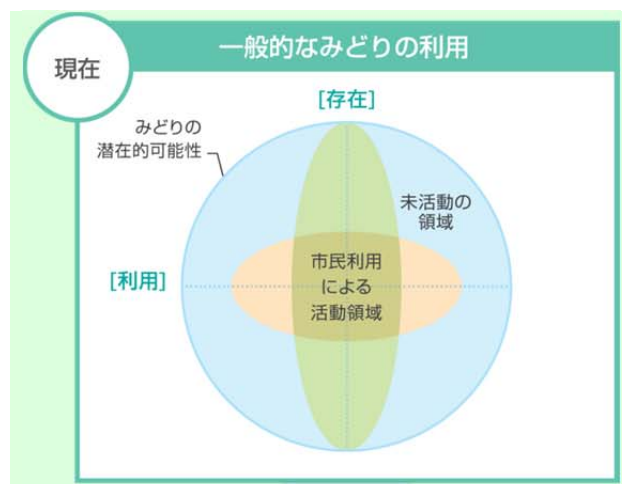
このような活動を進めるためには、地域の方々が話し合いの中で、色々な意見を聞き、みんなで考え、話し合うことが必要です。そのような話し合いの中で、地域の方の理解や合意へとつながっていきます。また、同時に新しい視点やアイデアが生まれる事も期待できます。



(3) みどりの関わりによる活動領域の広がり

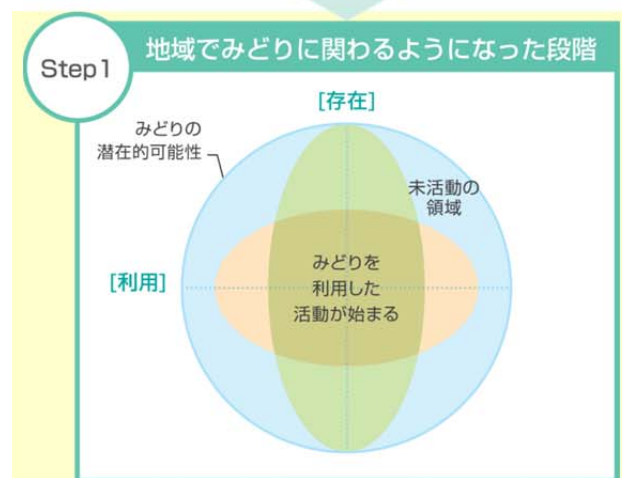
市民の皆さんに、地域のみどりに関わっていただくことで、利用の可能性（利用効用）が拡大するとともに、その相乗効果として環境保全などのみどりの存在価値（存在効用）の機能と役割が向上します。

図1-(3)-1の緑色の縦軸は、みどりが〔存在〕することによって効用を発揮する領域、オレンジ色の横軸は、市民の皆さんの参加による育成管理活動などを含む〔利用〕をすることによって効用を発揮する領域を表しています。緑色の領域とオレンジ色の領域が重なっている部分は、みどりの存在と利用の効用や価値を十分に発揮している領域を表しています。水色の領域は、みどりの潜在的 가능성을表すとともに、まだ活動がなされていない領域を表しています。



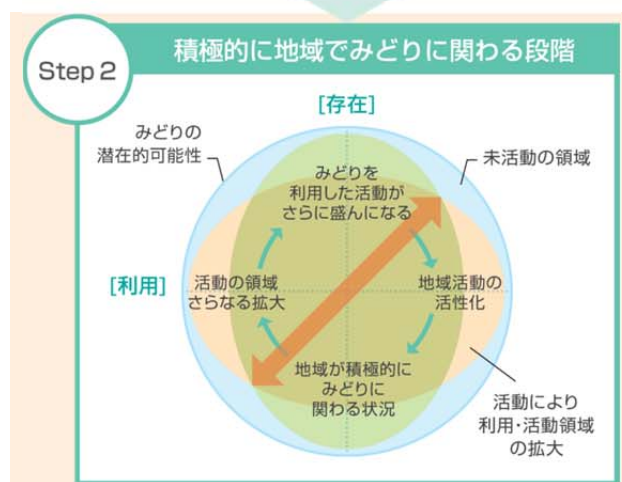
現在

「みどりのルネッサンス」が始まるまでの一般的なみどりの存在と利用の状況を表しています。多摩市の豊かなみどりについて、市民の皆さんからは高い評価を得てはいますが、〔利用〕による活動領域が小さいため十分な存在効用や潜在的 가능성을活かしきれていない状態を表しています。



Step 1

「みどりのルネッサンス」が始まり、市民の皆さんの関わり（活動領域）が盛んになりはじめた状況を表しています。未活動の領域が小さくなることでみどりの潜在的可能性も発揮されはじめた状態を表しています。



Step 2

みどりの利用と活用に関わる、市民の皆さんの活動が盛んになった状況を表しています。活動の領域が大きくなり未活動の領域が小さくなることで、相乗効果が生まれ、〔存在〕と〔利用〕の領域が楕円から円に近づき、潜在的 가능성이さらに発揮されてきた状況を表しています。このステップが「みどりのルネッサンス」により「愛でるみどり」から「関わるみどり」への展開を表しています。

これらのステップを確実なものとしていくためには、市民の皆さんと多摩市が協働してみどりの利用、活用を展開する必要があります。

この協働の進め方を示したものが、次章からの展開方針やリーディングプロジェクトの今後の取り組みです。

図 1-(3)-1 活動領域の広がり